

No. 01
2020. 4

職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する 金沢職人大学校だより

◆金沢職人大学校だよりを発行いたします！

金沢職人大学校は、伝統的な建築技術を継承・発展するため、金沢市と関係する職種団体により、1998(平成8)年に設立されました。以来、匠の技を修得した職人を輩出し、そうした本校の修了生は、文化財等の建物の保存と再生、伝統的な建物の修復に活躍しています。

また、市民等の方々に伝統的な建築の技と職人の方々の大切な存在を理解していただくことも目

的としています。そのため、「金沢職人大学校だより」を発行し、職大の様々な活動を知っていただく一助にしたいと思います。

なお、このような施設は、わが国で唯一のものであり、とてもユニークで大切な取組みです。そのため、国内外から注目され、多くの視察や取材があり、対応しています。

(理事長・学校長 川上光彦)



金沢職人大学校の建物

授業参観・バザー

市民の皆さんに高度な職人の技に触れていただくため、授業参観と職人技が凝縮した作品展示・バザーを行っています。

第9回目は、令和元年5月26日(日)午前10時～午後2時に行いました。多くの市民の皆さんにお越しいただき、各職人の技の一端を見学していただきなどしました。本年は、コロナ感染予防のため、中止とします。



子どもマイスタースクール

7人の講師が職人のモノづくりの技術と心意気を教えています。本年3月までの9期生は小学生高学年から中学生まで15人が学んでいました。

毎月第2・第4土曜日の午後2年間に、各分野の技を体験します。また、湯涌江戸村では自分の修了証の用紙を作る紙すき体験、湯涌創作の森では作製したミニ衝立に貼る金沢“から紙”の製作も行っています。今年の6月には10期生を新たに迎えてスタートする予定です。



◆ 本科：9科より構成・修了すると“金沢匠の技能士”

本科は9科(石工、瓦、左官、造園、大工、畳、建具、板金、表具)より構成されています。定員は大工科のみ10名、その他は5名で計50名です。各組合より推薦を受けた、10年程度以上の経験者で、働きながら3年間夜間や休日に学んでいます。修了すると、“金沢匠の技能士”の称号が授与されます。第7期生(2017年9月修了)までに331名が修了しています。

石工科

石工(いしく)は、近年機械を用いることが多くなっていますが、5名の若い職人に、昔ながらの鋼(はがね)の道具作りから手作業の技まで教えています。5人の講師が、藩政時代から金沢に根付いてきた職人の高度な技術を残すべく研修を行っています。

道具製作、石垣加工、石積作業、軟石や御影石の加工、設置作業の技を学びます。



左官科

昔の壁は、小舞搔き(こまいかき)から始まり、荒壁、裏返しをして、土壁を使って斑(むら)直し、中塗りをして朱塗り・群青などの上塗で仕上げました。土の壁は温湿度を調節するので日本の風土に適した自然材です。

鏝(こて)の選び方や使い方から海鼠(なまこ)壁、漆喰磨き、漆喰蛇腹(じゃばら)などを学びます。



大工科

大工の伝統的な技は“さしがね”という直角のものさしを使いこなす規矩(きく)術でした。“さしがね”一本で丸いものから六角・八角のものまで作ることが出来、大変奥の深い技です。

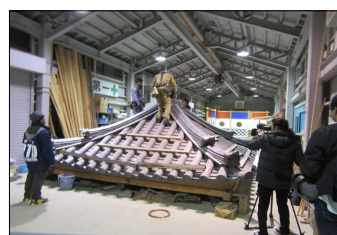
規矩術の基本から、伝統的建物の入母屋(いりもや)屋根、屋根の陸り(むくり)、軒下の複雑な木組み、破風(はふ)、数寄屋建築としての茶室などの技を学びます。



瓦科

瓦の成分、形、製造工程などの基本的な知識と葺き工事について学びます。伝統的な瓦ほど屋根に適したものは無いと言われていました。金沢では蒸気機関車の開通後、防火のため瓦が普及し、黒色の釉薬により、黒瓦の家が多くなっています。

本瓦葺は文化財や関西・東海地域でもみられ、北陸では少ないのですが、その伝統の技を学びます。



造園科

金沢では特に造園への関心が高く、植木に対する愛着も強く良い意味で贅沢です。また、気候風土に合わせた流儀があります。現在はクレーン等の機械作業も多くなっていますが、機械が入らない場所では人力と知恵が必要です。これらの技を磨きます。

各種の垣の造り方、樹木の剪定方法、雪吊りの方法、石組みや茶室の作庭などを学びます。



畳科

畳は鎌倉時代に寝殿造りが普及するに伴い発達しました。また、畳は、昔から清浄無垢なものとして、お茶席では茶碗を畳の上に直接置きますし、歩く位置も決まっています。畳職人に基本とされてきた心構え、手縫い畳の技などを学びます。

畳床の調査や採寸の方法、畳縁(たたみべり)の紋合わせの技や御神座(ごしんざ)の作成などを学びます。



建具科

襖・障子・扉・窓などの間仕切りを造り、格子もその一つです。昔はすべて木で造られ、修復する場合も木を用います。そのため、まず木を見分け、使用方法を考えます。また計算通り正確に溝を刻み、組み合わせ、模様を描いて贅沢に見せる工夫をします。

伝統建具の基本から、門扉、茶室の炉縁、書院の組子、板戸の製作方法を学びます。



表具科

掛軸・屏風などの調度品や間仕切りとしての襖や障子、近年は洋間のクロス張りも仕事になりました。最も手掛けているのが書画を作品に相応しく掛軸に仕立てる表装です。掛軸や襖の昔からの基本を知る必要があります。

金沢の表具技術を伝えるため、和紙、屏風、砂子、載金、障子・腰貼り、寒糊吹きなどを学びます。



板金科

屋根・外壁・雨樋・ステンレスなどの板金工事を行います。その中でも文化財等の社寺仏閣建造物に關係する板金、飴(かざり)工事を学びます。飴は一枚の板から叩いて絵を描いたり形を作ったりしていく技術です。

それらの基本の技として、銅板の菱葺、廻し葺、飾皿、鯨鯨水落口、柱根、鬼、千木などの制作の技を学びます。



長町研修塾・匠心庵

建物は明治初期と推定され、武士系建物の特徴を継承したものです。職大の総合的な研修の一環として改修され、1999年3月に公開されました。後庭の茶室匠心庵は、修復専攻科の1期生により新しく建てられたものです。

これらの建物は、建築の職人や研修生の研修の場として利用されていますが、お庭の見学は市民や観光客に開放されています。



◆修復専攻科：修了すると“歴史的建造物修復士”

本科の修了生や金沢市の技術系職員、建築設計士が伝統的建造物の調査と修復のための技法を学んでいます。定員は計50名で、働きながら3年間週1回半日学んでいます。修了すると、“歴史的建造物修復士”の称号が授与されます。第6期生(2017年9月修了)までに235名が修了しています。

講義の受講の他に、様々な職種の職人と市職員や建築設計士がチームを組んで歴史的建造物の調査実習に取り組んでいます。第7期は以下のような調査を行いました。

市内池田町に立地する、大正元年頃に建てられた武士系住宅の建物調査を行いました。建物の柱に残る痕跡を調べ、歴史的な変遷を考察しました。



市内石引にある加賀八家奥村家(宗家)上屋敷跡に残る土塀の現況調査を実施。土塀の伝統技法

を理解するとともに、傷んだ土塀の修理方法を検討しました。

市内寺町にある加賀藩祈禱所のひとつで、1826(文政9)年頃の建立と伝えられる寺院の傾斜した大仏殿の破損状況等を調査し、今後の修理方針を検討しました。通称六角堂と呼ばれ、堂内には毘盧遮那仏を祀ります。



土塀の薦掛け(こもかけ)

長町武家屋敷跡にはまだ多くの土塀が残されています。土塀を冬季の風雪から保護するため、薦掛けを行います。業務は市より職大に委託され、石川県造園業組合の指導のもとに本校造園科の研修生などが行っています。

全長約1,100mにもなり、薦掛けは冬の到来を、薦外しは春の到来を表す、金沢の風物誌の一つです。



市民公開講座・庭園探訪

【市民公開講座】市民の方々に職人の技の一端を経験いただくために9科のいずれかについて講師から半日程度学ぶ体験をしていただいています。

【庭園探訪】造園科講師から庭園づくりや管理についてお話を聞きながら見学します。市内5か所で行い、9回目となる今回は112人に参加をいただきました。



研修生を募集中です！

【本科】9期生(令和2年10月～令和5年9月)、定員は大工科のみ10名他は各科5名。基本的技能を修得済・10年程の経験有・30歳から50歳程度まで・継続して自主的に研修する意欲のある方。各組合からの推薦要、学費は無料、6月末締切。

【修復専攻科】8期生(令和2年10月～令和5年9月)、定員50名。本科の修了生、建築設計士などで伝統的建造物の調査と修復のための技法を学ぶ方、各組合等から推薦要、学費無料、6月末締切。

【編集後記】

「職人かたぎ」という言葉がある。自分の仕事に自信と誇りを持つが、それを自分から語らない。寡黙で技術や技法を丁寧に教えたりしない。自分がやってきたように、自身で苦勞して学べばよいなど。そうした姿勢にはあこがれるが、時代は変わった。若い世代は優しくなっているように感じ、スマホやパソコンに長けている。伝統的な技術や技法を伝承するには、そうした変化に対応していく必要がある。職大の役割は、その一端を担う組織であるのではと思う。(M.K.)

職人さんのお茶・謡曲教室

金沢でお茶や謡曲は、藩政時代から市民の嗜みとして広く普及していますが、職人の方々の欠かせない素養としても親しまれています。

職大では、職人さんがお茶と謡曲を月2回9箇月間、夜間に学ぶ教室を設けています。



講師・研修生紹介

【宮本修一氏】

当校1期の修了者であり、本科5期生から約12年間、講師を務めています。大工歴55年、生まれは輪島、父が木挽き(こびき)で中学卒業後、金沢に出て大工棟梁の元で住み込み修行、その後独立。家族は妻と独立した3人の子どもで、長男が大工の仕事をしています。現在70歳、バリバリの現役です。

右より、講師の宮本修一氏、本科研修生の北野猛氏



【北野猛氏】

9月に修了しますが、残りの時間を大切にスキルアップしたい。祖父が大工で、子どもの頃から木が大好きで大工になり、16年経ちました。将来の夢は棟梁になること。現在34歳、結婚しています。金沢職人大学校に入って良かったことは、同世代の人たちと交流できたこと、知らない技術を習得できたことです。

【発行・連絡問合せ先】

公益社団法人 金沢職人大学校

理事長・学校長 川上光彦

住所：金沢市大和町1番1号

(金沢市民芸術村の一角にあります。)

Tel 076-265-8311

Fax 076-225-8314

Webサイト <http://www.k-syokudai.jp/>

事務局：平日9:00～17:00、土日・祝日休み